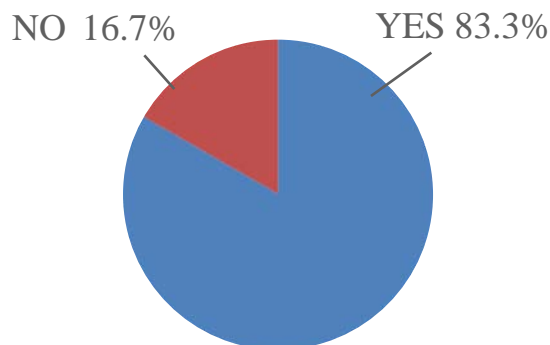


▶ 高校生キャプテン会議第二部 オープン・ディスカッション

高校生からの事前アンケートを元に、日本を代表する元アスリートと共に、理想のキャプテン像について導き出しました。

【質問】

実際に自分が言われて勇気・やる気が出たなどの、印象に残ってる言葉はありますか？



【山口】 大学のときに、「上に立てば立つほど汗をかけ！」と言われましたね。自分がその時、天狗になってたからかもしれないですけど。監督やリーダーからだけでなく、仲間や後輩から勇気づけられたことは多いです。

【川合】 全日本でやった頃なんですけど、日本のトップ＝世界のトップなんですけど、バレーボール協会の会長から「川合、調子に乗ってんじゃない！お前はこのチームの捨石なんだよ！」って言われまして、その時はビックリしたんですよ。世界でも有数の僕ですよって(笑)。その時は分からなかったんですけど、バレーボールっていうのは誰かが凄くて良いっていうものじゃないと、そういう凄い奴をおとりしながら誰かが決めて、ダメだったらまた僕が決めるというスポーツなんだっていうのを、プレイしても分からなかったのが、キャプテンになって「バレーボールとは？」と考えた時に気づかされました。

【上田】 でも昔の方って、そういう方多いですよ。 「言葉」を、「お前が分かるようになるまで、お前は未熟だ。」みたいな事を言う方はかえっていらっしゃると思います。

【川合】 それで悔しいからまた上手くなったりしましたからね。

【安藤】 私は逆に言葉ではないんですけど、宇津木監督がやってたんですけど、「姿勢」。ひたむきにやる姿勢、監督の姿勢・キャプテンの姿勢から、一途に真剣にやる熱さというか、そういうものをいつも近くで見ている、言葉ではないんですけど、私も甘たれていられないっていう、勇気になったのは凄くありますね。

【上田】 やはり指導者・リーダーが緊張感を持って練習に臨むっていう事が、自然とそういう環境をつくるんですよ。やっぱり、信頼関係を築いたうえで始めて、言葉はうまく伝わるということですね。



※キャプテン会議より、一部抜粋。アスリートの皆様には、その他多数の高校生の悩みに対するアドバイスを頂きました。